

外部人材を活用した学習活動の充実

～学校を支援する外部人材や地域の教育資源の活用と発展～

千葉県立印旛特別支援学校



研究のポイント

研究指定2年目として、昨年度に引き続き外部人材や地域の教育資源の活用を図るとともに、今年度は学習活動の「発展」と「拡がり」に視点をあてる。昨年度、さくら分校の学校所在地である佐倉市が市制70周年を迎え、さまざまなイベント・行事が実施され、さくら分校も参加した。これらのイベントや行事を契機とし、佐倉市長をはじめ多くの地域の人々と触れ合い、人間関係を構築し、関係機関ともつながっていった。今年度は、地域の人々との交流を継続するとともに、昨年度まで受動的だった活動から学校主体で持続性のある活動を目指した。今後も産官学連携を強固にし、地域とともに学校の教育活動を発展させていく。

■学校の概要

<https://www.chiba-c.ed.jp/inba-sh/>

昭和55年4月に印旛郡市2市6町村を学区とし、心身に障害を持つ児童生徒の学校として開校した。現在は知的障害の児童生徒を対象とした特別支援学校となっている。平成24年4月より、全県を学区とした「さくら分校」(普通科職業コース)を開校した。今年度で開設14年目を迎える。佐倉南高等学校の校舎の一部を借り、各学年2学級ずつ、計6学級で48名の定員となっている。

■研究課題

地域の教育的資源や外部人材を活用した学習活動の充実についての実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【目的】

外部人材の活用を通して学校から地域等への積極的な発信をし、地域とのつながりを構築していくことで学校教育の質の向上、更には地域の教育力の向上を図ることを目的とする。

【方法】

- ①外部人材活用の学習活動を教育課程上に位置付け、目的・ねらいを明確にし、その教育的効果を検証する。
- ②さくら分校が主体となって地域(佐倉市)に発信した活動をまとめ、その教育的効果を検証する。また、ESDの観点から、佐倉市議会における意見交換会(代表生徒6名)に向けての学習を行う中で、「より豊かな佐倉市」を目指し、地域と共に歩み、地域に支えられている学校という生徒の意識を拡げる。

■研究概要

【外部人材の活用の発展と拡がり】

◇職業委嘱講師からの指導を生かした実践活動

(さくら分校)

専門家より清掃のノウハウを教わり、生徒が地域の小学校に出かけて行き、清掃の方法を小学生に指導する。

◇日本オラクル(株)職員との交流・リモートを通じたプログラミング学習

(本校高等部、さくら分校)

会社の職員を情報の授業の講師として、プログラミングの学習をする。

○見えてきたこと/成果と課題

- ・地域の小学生に教える ⇒ 頼られる経験 ⇒ 達成感と自信を得られた。
- ・生徒2名に指導する職員1名がつくことによって、個に合わせたきめ細やかな指導・支援を受けることができ、頻繁にコミュニケーションが生まれ、生徒それぞれの進捗で学習に取り組むことができた。さらに、生徒の集中が途切れることなくプログラミングの作成に取り組むことができた。
- ・外部人材を活用する際には、日程や回数の調整の難しさがあった。

【地域の教育資源】

◇千葉県立西部図書館職員による訪問読書支援（読み聞かせ）

(本校小学部)

◇順天堂大学サークルとの交流活動（本校中学部）

◇産官学の発展と拡がり・佐倉市との連携

(さくら分校)

佐倉市議会への参加、地域の食堂への野菜の納品、常磐植物化学研究所等とのつながり、パラスポーツフェスタの開催

○見えてきたこと/成果と課題

- ・児童から、読み聞かせの翌日「この間の本をもう一度読んでほしい」との要望（興味・関心の拡大）が挙がった。
- ・昨年度は佐倉市が主体であったが、今年度は生徒が佐倉市に向けて発信をし、さまざまな活動を行った。佐倉市にある学校として、佐倉市議会に参加して積極的に意見を発表するなど、より豊かな地域を目指そうという意識が生徒に浸透していった。

【今後に向けて】

- ・本校のコミュニティ・スクールのテーマである「地域の人材活用」を今後も検討し、児童生徒の学習活動における教育的効果を検証していく。
- ・佐倉市や印西市など、学校所在地の地域の人々とのつながりや交流を今後も継続するとともに、持続性のある主体的な活動を行っていく。

関連資料

第3次千葉県特別支援教育推進基本計画